



シリーズ版 ⑧



認知症の症状

見当識障害

～時間や季節感の薄れ～

時間や場所、および人の見当をつける能力を「見当識」といい、それが低下することを「見当識障害」といいます。

4コマのおばあさんの場合

- 何回も日にちを質問する
 - 季節感のない服を着る
- 時間や季節の
感覚の薄れ



時間の「見当識障害」では、日⇒月⇒季節の順で分からなくなっていきます。

本人は、何度も時間や日にちの質問をして確認しています。本人が見て分かりやすい表示をするなどの工夫をしましょう。

気を付けたい接し方のポイント

怒らず責めず、 余裕をもって接しよう

季節や月日を感じさせるような言葉がけをしたり、あらかじめ、季節に応じた衣服をタンスに用意しておくなどの工夫をしましょう。

高齢者の認知症とどう違うの？

治療できるの？

65歳未満の認知症 若年性認知症



どこに相談したらいいの？

「認知症」は高齢者の病気と思われがちですが、65歳未満で発症した場合は「若年性認知症」といいます。本人や配偶者が現役世代であることが多く、就労・子育て・介護など様々な問題を抱えることになるため、**早期発見**と**早期治療**が重要です。

若年性認知症の特徴

- 男性の割合が多い
- 推定発症年齢は平均約**51歳**
- 高齢者より、症状の**進行が速い**

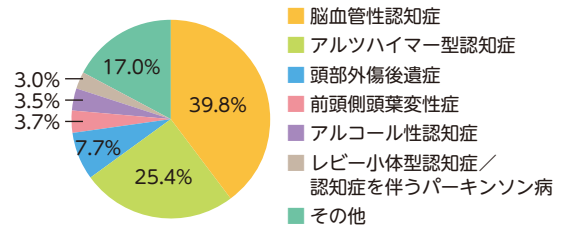
早めの気づきと早期治療が大事！

働き盛りの世代は、自分でおかしいと思っても、疲れや更年期障害とを感じるため気が付くのが難しい場合があります。家族や友人、同僚などが異変に気付いて受診をすすめるのも、早期発見の1つの方法です。

専門の相談窓口があります

- 「福井県若年性認知症相談窓口」(公益財団法人松原病院内)
☎0776-63-5488 (専用ダイヤル)
- 嶺南認知症疾患医療センター(敦賀温泉病院)
☎0770-23-9800 (直通) 相談無料

若年性認知症の原因となる病気



※出所：若年性認知症の実態等に関する調査結果の概要及び厚生労働省の若年性認知症対策について

早めの気づきチェックポイント

- 同じことを何度も聞く
- 伝言したことがうまく伝わらない
- よく知っている道を迷う
- テレビや新聞を見なくなる
- 好きだった趣味活動をしなくなる

認知症になっても安心して暮らせるつるがをめざして、地域力を高めよう!!

認知症対応模擬訓練

認知症を正しく理解し対応方法を学ぶ「認知症サポーター養成講座」と、地域の中での「見守り・声かけ体験」などをおこなう認知症対応模擬訓練を開催しています。

昨年度は、市内3地区(北地区・津内1丁目・和久野)で開催しました。

参加者の声を紹介します！

- ◆ 認知症はだれもがなる可能性のある病気、だからこそ「我がこと」と捉え、やさしく見守り声をかけたい。
- ◆ 地域でみんなで見守ることが大事だと思う。
- ◆ 寸劇が分かりやすかった。年に1回は実施してほしい。



認知症サポーター養成講座



道で出会ったら…声かけ体験

認知症対応模擬訓練のご希望がありましたら、地域包括支援センター「長寿」☎22-8181 までお問い合わせください。

認知症ほっとけんまちハンドブック シリーズ版⑧ 令和2年9月発行



敦賀市 認知症サポーター数：12,111人 (R2.7.31 時点)

※ご依頼があれば、どこでも「認知症サポーター養成講座」を開催できます。長寿健康課までご連絡ください。

発行：敦賀市 長寿健康課 ☎22-8181
協力：敦賀市認知症支援推進協議会

次号につづく

